



リレーエッセイ

ハードルを越えて

36

坂元 秀明さん
(出水市麓町)

フライングディスクは、プラスチックの円盤（ディスク）を投げて競うスポーツで、飛距離を競う「ディスタンス」と、正確さを競う「アキュラシー」の2つの種目があります。「ディスタンス」は最も遠くに飛んだ地点までの距離を競い、「アキュラシー」は5mまたは7m離れた円形の輪に向けて投げ、その通過回数を競います。全国障害者スポーツ大会において、2009年初めて出場した新潟大会の両種目で金メダルと銀メダル、2012年の岐阜大会で4位を受賞しました。フライングディスクとの出会いは、今から15年余り前になります。私は2歳でポリオ（小児麻痺）にかかり、左手に麻痺がありますが、「これならできそう」と軽い気持ちで始めました。始めて間もない頃は、県予選大会に出ても思うような成績は残せなかったのですが、コツコツと練習に励むことによって、だんだん飛距離が伸びてきて、2009年の快挙につながりました。岐阜大会のときも順位こそ4位でしたが、その頃勤めていた小学校の児童に「全国で4位なんてすごい！」と励ましの言葉と拍手をもらったことが何より嬉しかったのを覚えています。私のように長い間小学校の事務職に就いていた者が、子どもたちに障害者スポーツに接する機会を与えることで、競技自体の認知度が高まるのを感じた瞬間でもありました。

東京オリンピックやパラリンピック、鹿児島県での国民体育大会の開催など、障害者スポーツが取り上げられる機会は増えていますが、学校や社会での認知度を含め、まだまだ十分な環境は整っていないように感じます。例えば、鹿児島市で開催される大会やイベント等も地方の障害者にとって参加することは大変な労力が必要です。すべての障害者が参加しやすい環境づくりが、障害者スポーツの普及にもつながるのではないでしょうか。そして、これからの未来を担う子どもたちに、自分を信じて努力を重ねれば夢は叶うということを伝えていきたいですね。行政の各部門の垣根を越えて、障害者スポーツを考えていくことが、これからの課題だと考えています。新型コロナウイルス感染予防のため、今年開催予定だった全国障害者スポーツ大会が延期になりましたが、次の目標を目指して日々の練習に励みたいと思います。



障害者スポーツ初級指導の資格も持つ坂元さん。新潟大会では金メダルと銀メダル（左）、岐阜大会では4位に入賞しました。



投げ方に規則がないため、自分の投げやすい方法でできるフライングディスク。プラスチック製でわずか100gという軽さと、簡単で、いろいろな障害のある人が一緒にプレーできるのも特徴。

